



西尾市議会

# 厚生環境委員会

## 3月定例会の報告

### 【委員会構成メンバー】

委員長：福西あきひと      副委員長：中村なおゆき

委員：中村真一   前田修   松崎隆治   岩下一隆   細井まゆみ   大須賀竜也



# 厚生環境委員会は

## ①健康福祉部

福祉課、つながりの輪支えあい推進室、  
長寿課、保険年金課、健康課、看護専門学校

## ②市民病院事務部

管理課、医事課

## ③環境部

環境保全課、産業廃棄物対策室、  
ごみ減量課、環境業務課



の3部を担当しています。

# 本日の報告は3月定例会の内容です。

---

**大須賀竜也** 議員

3月定例会にて本委員会に付託された  
議案の概要説明

**細井まゆみ** 議員

障がい者扶助料の見直しについて

**岩下一隆** 議員

つながりの輪サポートステーションの  
開設について

## 健康福祉部

### 重層的支援体制の拠点整備



「誰一人取り残さない」  
相談・支援体制の構築

制度の狭間にある困りごとや、居住支援など、複雑化する相談に「断らない」姿勢で対応する窓口「つながりの輪サポートステーション（つなサポ）」を市役所会議棟1階に開設する。

大人のひきこもり支援

総合福祉センター3階に「つながりルームらぽっと」を開設し、8050問題など中高年世代のひきこもり当事者や家族への幅広い支援を開始する。

専門職による同行訪問

精神障害者の専門職が同行し、複雑な課題を抱える家族のニーズ把握や助言を行う「Kokoroつながりサポート」を実施する。

環境改善支援

自力で片付けが困難な生活困窮世帯に対し、市民ボランティアと連携した不要物処分の支援枠を新たに設ける。

### 各種制度の見直し・助成拡充



障害者扶助料の見直し

国や県の支援制度との重複を整理し、限られた財源で今後も安定して支援を続けていくため、支給要件の一部改定を行う。

国民健康保険税の改正

国全体で子育てを支える新しい仕組み（子ども・子育て支援金制度）の導入に伴い、税額の計算方法を見直す。

補聴器購入費助成の拡充

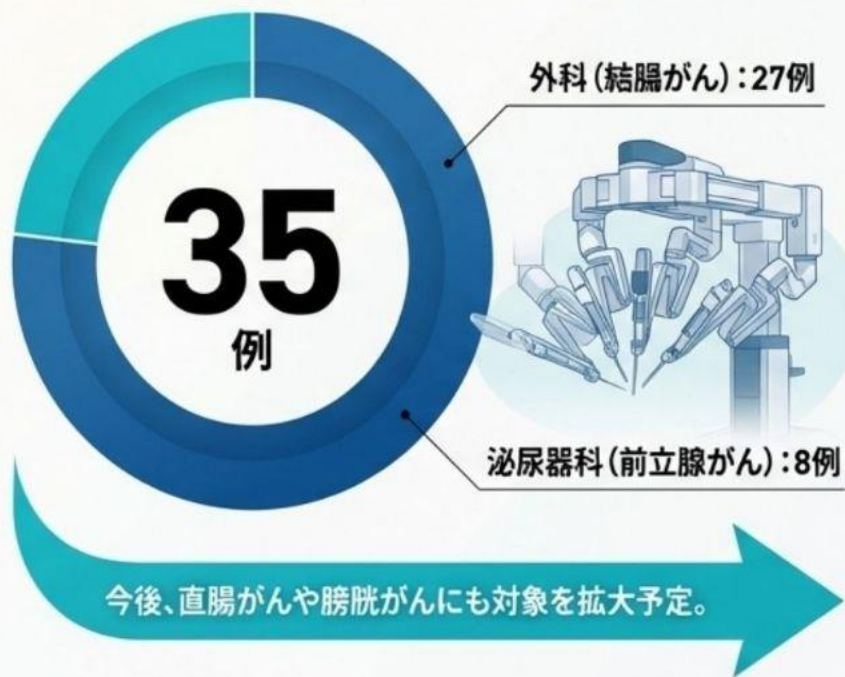
加齢性難聴の方を対象に、補聴器購入費用の一部を助成し、社会参加と認知症予防を支援する。

## 市民病院事務部

### 最新鋭の手術支援ロボット「ヒノトリ」の活用

外科（結腸がん）で27例、泌尿器科（前立腺がん）で8例を実施し、順調に症例数を伸ばしている。今後、直腸がんや膀胱がんにも対象を拡大する予定。【令和8年1月末の症例数】

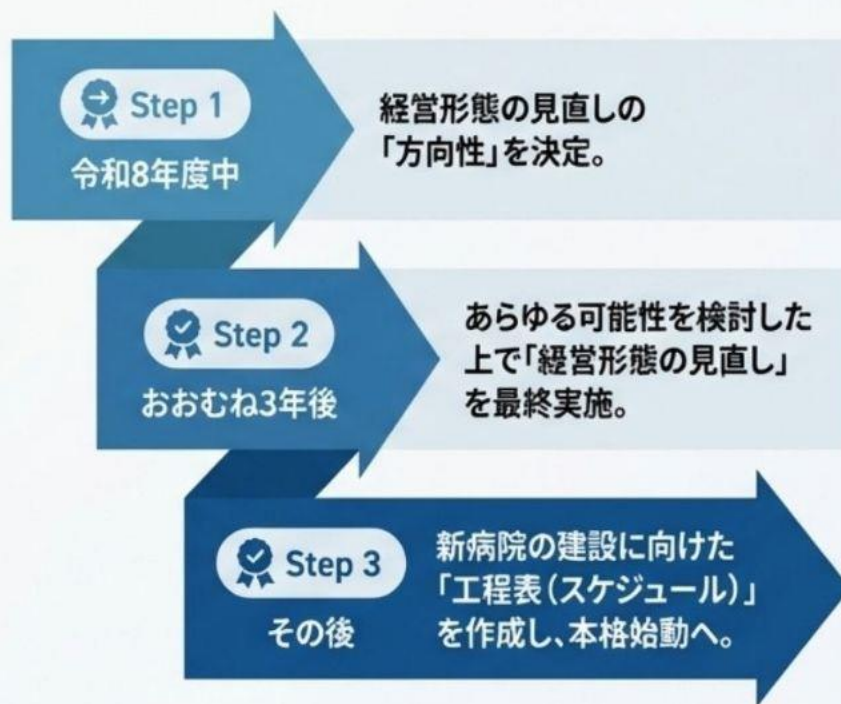
#### 最新鋭の手術支援ロボット「ヒノトリ」の稼働状況



### 経営形態の見直しと新病院建設

経営形態の在り方については、令和8年度中に見直しの方向を決定し、おおむね3年後をめどに、あらゆる可能性を検討した上で経営形態の見直しを行い、その後、新病院の建設に向けた工程表を作成する。

#### 経営形態の見直しと新病院建設へのステップ



## 環境部

### 市内事業者の脱炭素経営（SBT認定）支援

市内の温室効果ガス排出の約60%を占める産業部門の削減を促すため、国際的な基準であるSBT認定の取得を支援し、環境意識の向上と企業価値の向上を図る。



### 若手職員の提案によるごみ収集車（塵芥車）への広告掲載

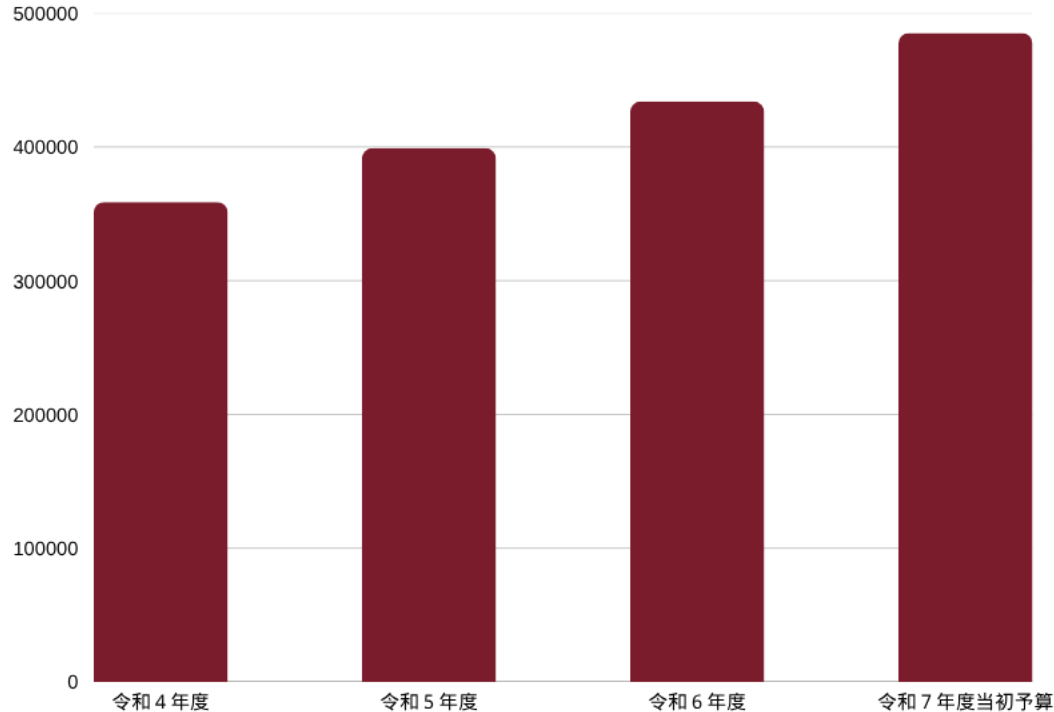
若手職員の提案制度「ワクワク創生」から生まれた、ごみ収集車（塵芥車）への広告掲載を新たに開始する。令和8年度は2台への掲載（見込額6万4千円）を目標とし、新たな財源確保を図っていく。



# 1. 見直しの背景

## 議案第13号 西尾市障害者扶助料支給条例の一部を改正する条例の制定について

### 障害者福祉費の推移(一般会計)



▲ 約1.35倍に増加(R4→R7)

- 令和4年度：35億8,838万円
- 令和5年度：39億9,106万円
- 令和6年度：43億3,946万円
- 令和7年度当初予算：48億5,207万円

### 見直しを検討した主な理由

- ① 障害者福祉費が毎年度増加しており、**財政への影響**が大きくなっている
- ② 国・県の障害手当が拡充され、市独自の扶助料との**重複給付**が生じている
- ③ 県内他市と比較して、**市扶助料の支給対象・水準**を見直す余地がある
- ④ 障害者施策全体のバランスを保ちながら、**持続可能な支援体制**を構築する必要がある

市扶助料(R7当初): **2億3,072万円** ※障害者福祉費全体の約4.8%

## 2. 見直し内容

### 議案第13号 西尾市障害者扶助料支給条例の一部を改正する条例の制定について

適用開始: 令和8年4月1日 ※激変緩和措置(2か年)あり

区分	月額(現行)	月額(改正後)	受給者見込	主な変更点	備考
重度	4,000円	4,000円 (据え置き)	2,096人 → 591人	国・県手当受給者を 対象外とする	
中度	3,000円	3,000円 (変更なし)	2,421人	変更なし	
軽度	2,000円	<b>1,000円</b>	1,802人	月額を半額に引き下げ	<b>激変緩和 措置あり</b>

財政効果(見込み): 約 **9,357万円** の削減

【県内比較】 重度: 同様の取扱いが他4市 / 軽度: 17市町村が同様

### 3. 分科会での主な質疑・答弁

#### 議案第13号 西尾市障害者扶助料支給条例の一部を改正する条例の制定について

分科会では、制度見直しの必要性だけでなく、生活への影響や説明責任について確認した。

**Q** 国と県の手当受給者数を市の扶助料の対象外とすることによっての影響をどのように考えているか。

**A** 現金支給が減ることの影響は少なからずありますが、障害が重度の方には、医療費の助成や障害年金などの社会保障制度がある。

**Q** 重度と軽度障害者の方は減額されるが、中度の障害者の方を見直ししないのはなぜか。

**A** 福祉課の日々の業務を通して、障害が軽度の方には比較的自立した生活を送り、一般就労により収入を得ることができる方が多いように思われるため。

**Q** 西尾市の改正案と同様の取扱いをしている県下の自治体はどのくらいあるか。

**A** 国か県の手当を受給する重度障害者を対象外としているのは4市で、知立市、高浜市、新城市、稲沢市です。軽度障害者を月額1,000円にしているのは、県下の3分の1にあたる17市町村である。

**Q** 改正条例が4月1日施行だと扶助料見直しの影響を受ける人への周知期間が短いと思うがどのようなか。

**A** そのために、障害者扶助料改正の影響を受ける方に対して、8年度は4分の3、9年度は3分の1の補助金を交付する2か年の激変緩和措置を予定している。

## 主要事業(新規)

# つながりの輪サポートステーション(つなサポ)開設

担当:健康福祉部 福祉課

- 事業費:8466万円(つながりの輪支えあい事業・生活困窮者自立支援事業等)

財源内訳	予算
国	4721万円
県	560万6千円
その他	1717万2千円
一般	1467万2千円

- 事業の目的:制度の狭間で複雑化・複合化した市民の生きづらさを丸ごと受け止めて支援する体制の中核機関として市役所会議棟1階に官民連携の断らない相談窓口「**つながりの輪サポートステーション(通称:つなサポ)**」を開設し、つながりの輪支えあい事業(重層的支援体制整備事業)と生活困窮者自立支援事業によるハートフルなセーフティーネットを既存窓口とともに地域全体に広げ、誰一人取り残さないまちを目指す。



**つなサポ**  
Tsunagarino Wa Support Station  
つながりの輪サポートステーション

つなサポのロゴマーク

多様な分野のつながりの輪から自立が芽生え新しい一歩を踏み出す姿をイメージしました。

# 厚生環境委員会・分科会での主な質疑・回答

## 〈つながりの輪サポートステーション関係分〉

Q: つながりの輪支えあい事業支援業務委託料1912万2千円の委託料の詳細は。

- A: ①「大人の引きこもり支援」で委託料は930万円。  
②「Kokoroつながりサポート」で委託料は585万円。  
③「主に未就園の親子のこころほっとするスポット」で委託料は347万2千円。  
④「市民ボランティアによる残置物処分」で委託料は50万円。



## Kokoroつながりサポート



Q: 重層的支援体制整備事業交付金について、国の社会福祉費補助金の重層交付金1億6312万円の内訳はどのようなか。

A: 福祉課分は約6800万円で、重層事業の既存事業である障害者相談支援事業所と地域活動支援センターの事業費対して約3千万円、「つなサポ」の事業費対して770万円、生活困窮支援の事業費対して約3100万円になる。  
長寿課分は約9500万円で、地域包括支援センター運営事業に対する約7400万円。生活支援体制整備事業対して約2千万円、地域介護予防活動支援事業費対して約117万円になる。



Q: 生活困窮者自立支援事業負担金の生活保護費等負担金から社会福祉負担金に変更されているのはなぜか。

A: 4月から開設するつなサポが、重層事業と生活困窮者支援を担うことにより生活困窮者支援事業の歳出予算を、これまでの生活保護等費から社会福祉費に移したことから区分を変更した。

- 事業の概要: つなサポは、多機関が協働して対応する困難事例の支援方針や役割分担を調整。制度の狭間の多様な困りごとに対応できる支援の受け皿として以下の取り組みを官民連携により行う。

事業名	主な事業内容	事業費
①大人のひきこもり支援 (つながりルームらぽっと)	総合福祉センター3階の「つながりルームらぽっと」を拠点に、8050など地域の潜在的ニーズが高い中高年世代のひきこもり者に対する幅広い支援を目指す。	930万円
②親子のこころがほっとするスポット	児童発達支援施設で週1回、子育てに不安を抱える親子が気軽に利用できる居場所を提供し、児童発達支援の専門職が保護者の困り感に寄り添い適切な助言や情報提供を行う。(令和8年9月開始予定)	347万2千円
③多様なこどもたちのための生活・学習支援	生活困窮などの多様な生きづらさを抱える小中学生を対象に新規開業するカフェ(令和8年5月予定)で週2回、座席の約半分の16席を開放して、午後4時学習支援(生活支援も含む)、午後5時から子ども食堂として夕食を提供。	702万4千円
④生活困窮者に対する食料支援を通じた多様な居場所づくり	ネグレクトや不登校等の困難を抱えた子どもを委託先主催の子ども食堂で受入れアウトリーチを実践。フードバンク利用者でひきこもり傾向の方には有償ボランティアとして食糧支援の作業を手伝ってもらい社会参加を体験させる。	1100万円
⑤地域居住支援 (居住支援法人)	住宅セーフティネット法による「居住支援法人」の県指定を受ける予定の社会福祉協議会と市営住宅のサブリースをはじめとする多様な居住支援のあり方を検討、実践。	650万円
⑥市民ボランティアによる残置物処分	生活困窮等により自分ではどうしても家屋や敷地内の不要な物を処分できない方に対し、市民ボランティアの清掃や片づけによる環境改善を行うとともに、排出されたゴミを適切に処理する。	50万円
⑦Kokoroつながりサポート	つなサポが訪問を必要だと判断した困難ケースに、精神障がい者支援の専門職が同行し当事者及び家族のニーズ把握や支援方針の助言を行う。	585万円
⑧エンディングサポート	高齢者単身世帯の増加に伴い身寄りのない方や身寄りがあっても頼れない方が自身亡き後の葬儀、納骨、家財処分、行政への届出等住み慣れた地域で安心して最期まで過ごすことができる死後事務支援。 (令和8年10月本格実施予定)	175万円 ※長寿課予算

**令和8年 4月1日**

# **『つながりの輪サポートステーション』 オープン！**



明るい感じと落ち着いた感じの相談室



立ち寄りやすいオープンスペースの窓口



**誰一人取り残さないまちを目指して！**

**報告は以上となります。  
ご清聴ありがとうございました。**

**厚生環境委員会**

